

23:44 さて、時はすでに十二時ごろであった。全地が暗くなり、午後三時まで続いた。

23:45 太陽は光を失っていた。すると神殿の幕が真ん中から裂けた。

23:46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

23:47 百人隊長はこの出来事を見て、神をほめた。たえ、「本当にこの方は正しい人であった」と言った。

23:48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、これらの出来事を見て、悲しみのあまり胸をたたきながら帰って行った。

23:49 しかし、イエスの知人たちや、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちはみな、離れたところ立ち、これらのことを見ていた。

23:50 さて、ここにヨセフという人がいたが、議員の一人で、善良で正しい人であった。

23:51 エダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた彼は、議員たちの計画や行動には同意していなかった。

23:52 この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。

23:53 彼はからだを降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた。

23:54 この日は備え日で、安息日が始まるうとしていた。

23:55 イエスとともにガリラヤから来ていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだを納められる様子を見届けた。

23:56 それから、戻って香料と香油を用意し

た。そして安息日には、戒めにしたがって休んだ。

神殿の幕は神様の聖と人間の罪とを隔てるものでしたが、その断絶がなくなっただけを意味しません。もちろんそれはイエス様の十字架によって、人の罪が赦され、神に受け入れられるものとなれたからです。もはや私たちと神様とを隔てるものはないということです。私たちは大胆に恵の御座に近づきましよう。

イエス様を十字架につけた者がいた反面、イエス様の死を悲しみ悼んだ人もいました。百人隊長や議員というのには、立場からすればイエス様を処刑した側の人間ですが、信仰は立場ではなくその人の内面によるのです。

私たちがどうでもしようか。もしも世の中がイエス様を否定しても、あくまでも信仰を持ち続ける者でありましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたなどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

